



# 1. 文化オリンピックアードのコンセプト

IOC等との調整中につき、今後変更の可能性があります

# 1 目的

- 文化は、スポーツと同じく、人々に感動を与え、豊かな人間性を涵養し、想像力と感性を育むなど、人間が人間らしく生きるための糧となるものである。
- これらは正に、オリンピック・パラリンピックの精神に通じるものであり、オリンピック憲章においても、文化の重要性について、以下のように謳われている。「オリンピズムは肉体と意志と精神のすべての資質を高め、バランスよく結合させる生き方の哲学である。オリンピズムはスポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探求するものである。その生き方は努力する喜び、良い模範であることの教育的価値、社会的な責任、さらに普遍的で根本的な倫理規範の尊重を基盤とする。」【オリンピック憲章 「オリンピズムの根本原則」より抜粋】
- オリンピックはスポーツと文化の祭典であり、文化の取組は、全国どこにいても、誰もがオリンピック・パラリンピックに参加することを可能にするものである。
- 東京2020組織委員会は、政府、東京都、スポンサー、全国の地方公共団体、文化芸術団体等と連携し、より多くの人々をオリンピック・パラリンピックに巻き込み、全国各地におけるオリンピック及びパラリンピックムーブメントを盛り上げるため、多様な文化プログラムを展開する。
- 2020年より先の未来に日本や世界の文化を継承していく。

## 2 文化プログラムについて

### 目標

- ① 文化の祭典として、あらゆる人々が参加できるプログラムを全都道府県において実施し、地域を活性化  
する
- ② 文化オリンピックを通じて、多くの若者に文化芸術への参加を促進し、創造性を育成する

### ビジョン

#### みんなの輝き、つなげていこう (Unity in Diversity)

- 文化を通じて、未来とつながる、過去とつながる（時間的）、世界とつながる、地域がつながる  
（空間的）、世代を超えてつながる
- 国・人種・宗教が違って、みんながつながり、つながりが広がっていく
- 多様性を理解し、互いに認め合い、内面を豊かにし、広がっていく

### <名称>

#### 「東京2020文化オリンピック」

- リオデジャネイロ大会後に開始
- 東京大会開会前からは、集大成として、「東京2020フェスティバル（仮称）」を開催

2016年10月

2020年5月（予定）

リオ2016大会

東京2020文化オリンピック

東京2020  
フェスティバル（仮称）

### 3 文化オリンピックのコンセプト

#### 大会ビジョンの実現

全員が自己ベスト

多様性と調和

未来への継承

#### 残すべき4つのレガシーコンセプトの実現

コンセプト①：日本文化の再認識と継承・発展

コンセプト②：次世代育成と新たな文化芸術の創造

コンセプト③：日本文化の世界への発信と国際交流

コンセプト④：全国展開によるあらゆる人の参加・交流と地域の活性化

#### レガシー実現に向けたアクション

- 大会ビジョン及び4つのレガシーの実現に向けて、2020年までの4年間、様々な主体における多様な取組により、文化オリンピックを展開
- 文化の祭典としてあらゆる人々が文化オリンピックに参加し、オールジャパンで盛り上げることで、国内はもとより、世界中の国・地域から訪れる多くの人々に対し、日本の文化の力を発信



## 2. 文化オリンピック 事業体系と認証の仕組み

IOC等との調整中につき、今後変更の可能性がります

# 1 認証制度の目的

- 政府、東京都、全国の地方公共団体、パートナー企業、文化芸術団体等が一丸となって、全国各地で文化や教育の取組を展開し、エンゲージメントを広げるために、東京2020大会における文化プログラム・教育プログラムとして認証する仕組みを構築

# 2 認証の事業体系

事業名	実施主体	概要	付与マーク
公式文化オリンピックアード事業	東京2020組織委員会 (国、東京都、他の地方公共団体及びスポンサー企業等と共催)	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 大会ビジョンの実現に相応しい文化芸術性の高い取組み</li> <li>✓ 東京2020組織委員会の管理のもと実施</li> </ul>	OCOGマーク (2016年10月開始予定)  例：リオ大会におけるOCOGマーク  
	開催都市（東京都、都内区市町村）、国、会場所在地方公共団体、JOC、JPC、スポンサー企業		
関連文化オリンピックアード事業	非営利団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 東京2020大会の機運を醸成する事業</li> <li>✓ ムーブメントを裾野まで広げる</li> </ul>	NCマーク (早期にスタートできるように検討)  例：リオ大会におけるNCマーク 

## 3-1 認証の基礎要件

- 以下に掲げる要件を全て満たしていること
- また、東京2020大会スポンサーのマーケティングルールを遵守すること

要件	内容
公益性	事業の目的および内容に公益性があること
参加可能性	事業の対象者が広い範囲にわたること。また、参加料等が無料の事業やボランティアを積極的に活用するなど多様な参加に向けた工夫をしていること
非悪質	事業が公序良俗に反するもの、その他社会的な非難を受ける恐れのないものであること
非宗教・非政治	特定の思想、宗教および政治的活動に基づいていないこと
安全性	事業の開催にあたって、事故防止、公衆衛生対策等に十分な設備と措置が講ぜられていること
非営利性	営利・宣伝を主たる目的としない事業であること。また、入場料、参加料等を得る事業でも、その目的及び内容に対し社会通念上、適当な額であること
適切性	上記以外にオリンピック・パラリンピック憲章またはオリンピック・パラリンピックの趣旨に照らして不適切と認められる事業内容を含んでいないこと

## 3-2 認証対象となる取組

【文化芸術性に関する基準】 大会ビジョン及び文化オリンピックのコンセプトを実現する事業内容かどうかを総合的に審査

### 大会ビジョンに基づくもの

#### ①: 全員が自己ベスト（革新性・新規性）

- 大会を契機に新しい取組にチャレンジしている事
- 既存事業であっても、新たな試みを取り入れている事

#### ②: 多様性と調和（参画性）

- 人種や地域、障がいの有無を超えて、あらゆる人々が参加・交流する取組である事

#### ③: 未来への継承（レガシー）

- 2020年以降を見据えた東京・日本の発展に寄与する取組である事
- 次代を担う若者を鼓舞する取組である事

### 文化オリンピックのコンセプトに基づくもの

#### ①: 日本文化の再認識と継承・発展

- 日本文化の伝統を正しく伝えるとともに革新的な事業
- 次代を担う若者に対し、日本文化のすばらしさについて理解を促す取組

#### ②: 次世代育成と新たな文化芸術の創造

- 野心的・挑戦的・実験的取組であり、前例にない新たな芸術表現
- 若手の芸術家・キュレーター・アートディレクター、学生に参加・活躍の機会を与える取組
- 新作、初上演、初公演

#### ③: 日本文化の世界への発信と国際交流

- オリンピック史に残る大規模かつ創造的なイベント
- 新たな文化や多様な文化が融合・調和した日本の文化の魅力を世界に発信する取組
- 世界中の人々があらゆる人種や宗教を超えて、文化芸術を通じて参加・交流できる事業

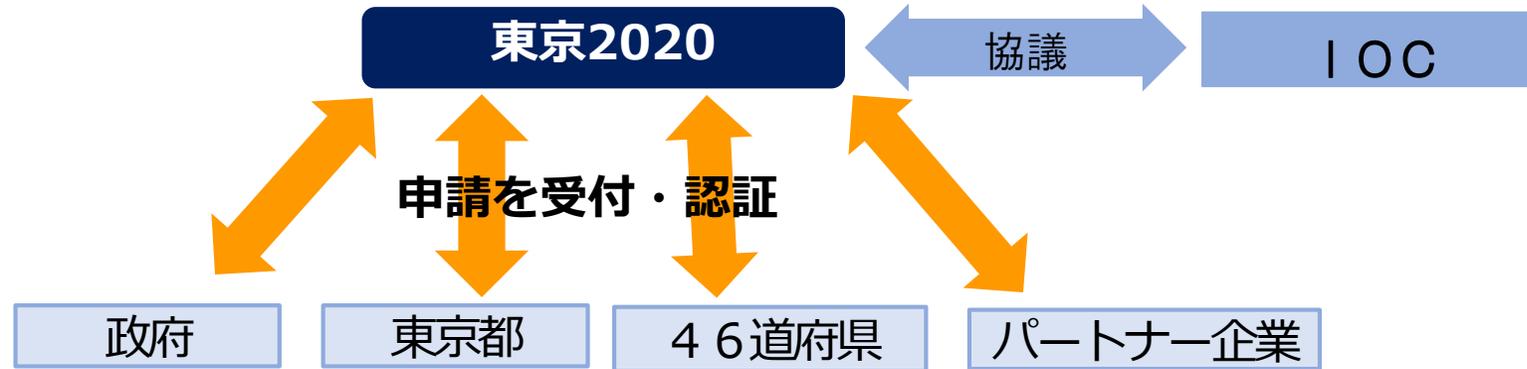
#### ④: 全国展開によるあらゆる人の参加・交流と地域の活性化

- 芸術展示、舞台芸術、音楽を見せるだけでなく、対話プログラムや実践型ワークショップなど、無料で参加できる事業
- 人種、性的指向、障がいなど、多様な背景を持つ人が文化芸術を通じて、参加・交流できる取組
- 地域社会の世代間、地域間を超えて、地域の様々な人々が連携共同し、地域の課題解決に向けた事業など、地域を盛り上げる取組

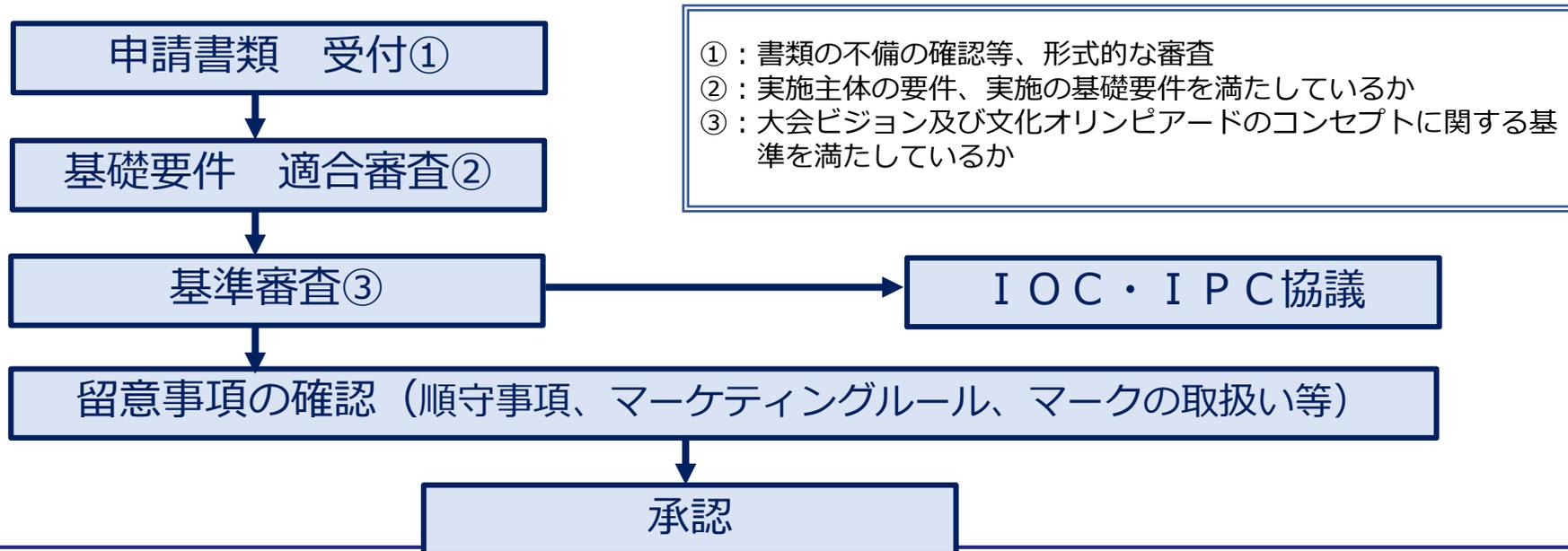
# 4 認証のプロセス

## <申請の流れ>

- 大会ビジョン及びレガシーコンセプトを実現する事業内容かどうかを組織委員会が総合的に審査
- 全国のより広範な地域に展開していくためにも、組織委員会のみならず、地方公共団体等関係団体との連携を強化



## <審査のプロセス>





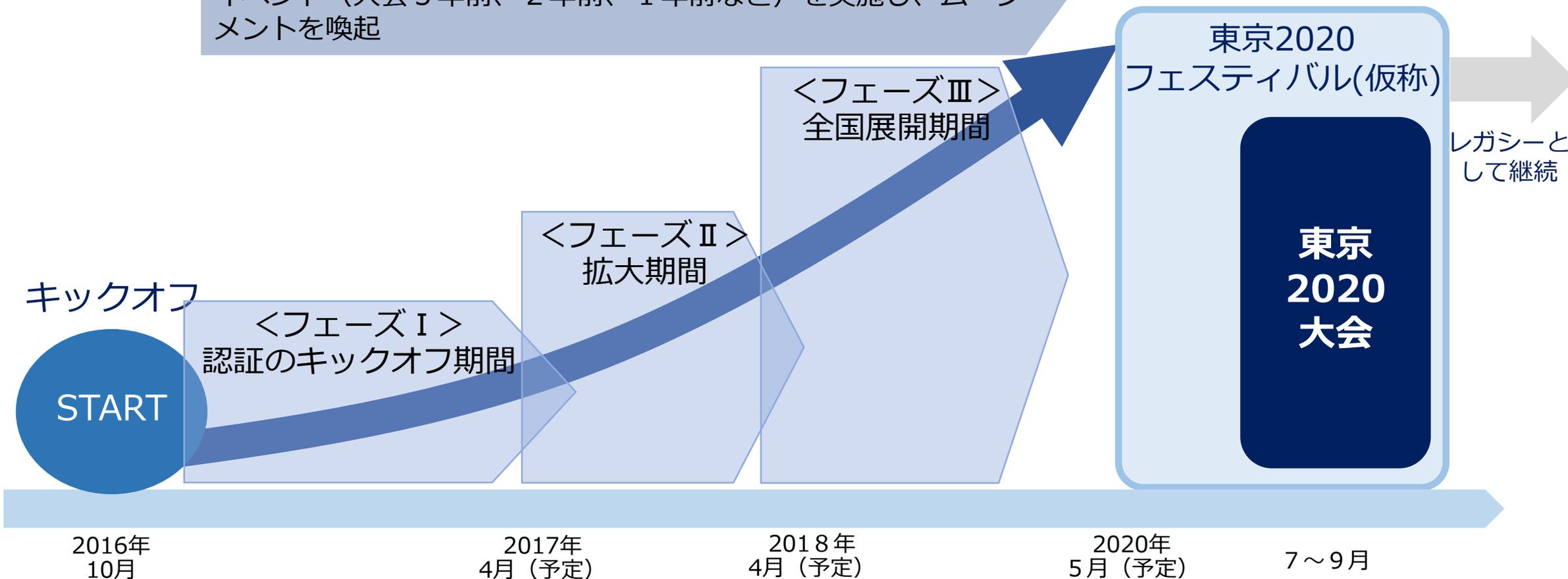
### 3. リオ大会後の展開

IOC等との調整中につき、今後変更の可能性があります

# 1. 文化オリンピックアード 今後の展開

- 2016年 8月頃～ 認証制度の公表・申請開始
- 10月頃～ 認証開始

➤東京2020主導で、ステークホルダーと連携し、マイルストーンイベント（大会3年前、2年前、1年前など）を実施し、ムーブメントを喚起



## 2. 文化オリンピックのWEBによるPR

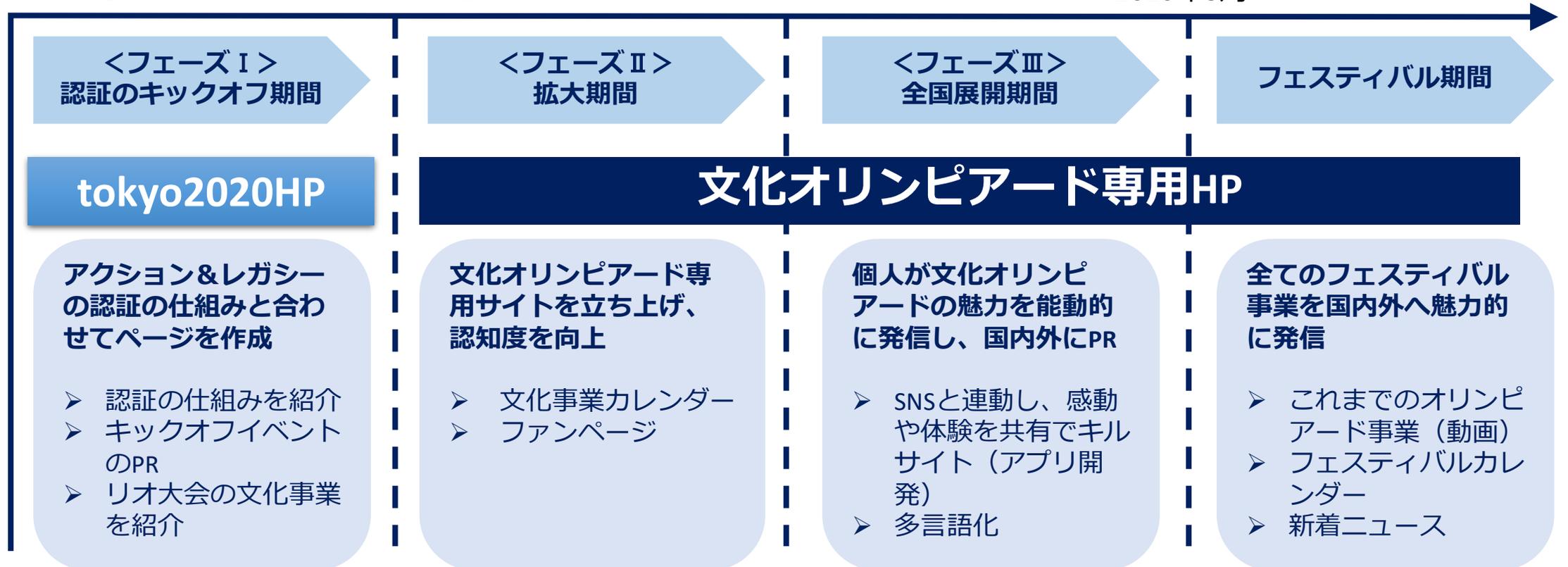
- デジタルメディアの力で文化芸術に参画する人を広げ、国内外の祝祭感を創出
  - ・ 全国の文化事業カレンダー
  - ・ SNSの活用
  - ・ ファンページでの相互交流

2016年7月

2017年4月

2018年4月

2020年5月



文化・教育委員会 委員名簿

資料 4

(50音順、敬称略)

委員長	青柳 正規	東京大学名誉教授
委員	浅葉 克己	アートディレクター、桑沢デザイン研究所所長
	池坊 専好	華道家元池坊次期家元
	市川 海老蔵	歌舞伎俳優
	今中 博之	社会福祉法人素王会理事長、 アトリエインカーブクリエイティブディレクター
	今村 久美	認定NPO法人カタリバ代表理事
	EXILE HIRO	アーティスト、プロデューサー
	榎本 智司	全日本中学校長会会長
	大橋 明	全国連合小学校長会会長
	小山 久美	昭和音楽大学短期大学部教授
	織作 峰子	大阪芸術大学教授
	桂 文枝	落語家
	絹谷 幸二	東京芸術大学名誉教授、文化功労者
	コシノジュンコ	デザイナー
	真田 久	筑波大学体育専門学群長
	SHELLY	タレント
	篠田 信子	富良野メセナ協会代表、喫茶・ギャラリーあかなら代表、 C-プランニング・フラノ代表
	杉野 学	全国特別支援学校長会顧問、東京家政学院大学教授
	銭谷 眞美	東京国立博物館長
	セーラ・マリ・カミングス	株式会社文化事業部代表取締役、 NPO法人桶仕込み保存会代表理事、利酒師
	千 宗室	茶道裏千家家元
	田中 稔三	キヤノン株式会社代表取締役副社長
	野村 萬斎	狂言師
	深澤 晶久	実践女子大学大学教育研究センター特任教授
	松下 功	東京芸術大学副学長
	宮田 慶子	新国立劇場演劇芸術監督
	村田 吉弘	特定非営利活動法人日本料理アカデミー理事長、菊乃井主人
	山崎 貴	映画監督

## 文化・教育委員会 ディスカッショングループ分担割り

(五十音順)

### 文化ディスカッショングループ

- ・青柳正規委員
- ・市川海老蔵委員
- ・小山久美委員
- ・絹谷幸二委員
- ・セーラ・マリ・カミングス委員
- ・野村萬斎委員
- ・村田吉弘委員
- ・浅葉克己委員
- ・今中博之委員
- ・織作峰子委員
- ・コシノジュンコ委員
- ・松下功委員
- ・山崎貴委員
- ・池坊専好委員
- ・EXILE HIRO委員
- ・桂文枝委員
- ・篠田信子委員
- ・千宗室委員
- ・宮田慶子委員

(19名)

### 教育ディスカッショングループ

- ・今村久美委員
- ・真田久委員
- ・銭谷眞美委員
- ・榎本智司委員
- ・SHELLY委員
- ・田中稔三委員
- ・大橋明委員
- ・杉野学委員
- ・深澤晶久委員

(9名)

## 都における文化プログラムの展開について

東京文化ビジョン（平成 27 年 3 月策定）及び、2020 年に向けた東京都の取組（平成 27 年 12 月策定）に則り、多彩な文化プログラムを展開

### ① 文化プログラムをけん引するシンボリックな事業を展開

- ・平成 27 年度から平成 28 年度夏のリオ大会にかけては、文化プログラムを先導する「リーディングプロジェクト」を展開  
(伝統文化・芸能体験プログラム、東京キャラバン、TURN)
- ・リオ大会直後は、文化プログラムのキックオフを印象づける重要な時期であることから、秋にかけて様々な文化事業を切れ目なく展開

### ② 公募等に基づき様々な主体の新たな発想を取り入れた事業展開を促進

- ・民間等による文化事業展開を支援するため、アーツカウンシル東京による助成事業である「気運醸成プロジェクト支援」を平成 28 年度から新たに開始

### ③ 東京と全国各地が連携しオールジャパンとしての魅力を向上

- ・様々な事業で都と全国の自治体等との相互連携を図る  
(リオにおける東北との連携事業、日本各地の文化施設と連携した展覧会や公演等の事業展開)